

事業名称	不登校・ひきこもり・若年無業者等支援機関が繋がるプロジェクト
団体名・代表者	特定非営利活動法人コムサロン二十一 理事長 前川 裕司
協働の相手方	労働政策課、保健所健康課、地域福祉課、総合教育センター育成支援課、くらしと仕事の相談窓口

目的	子ども若者育成支援推進法（平成21年法律第71号）の概要には、困難を抱えている子ども・若者について、子どもの貧困、児童虐待、いじめ、不登校児の問題は相互に影響しあい、複合性・複雑性を有していることが顕在化していると書かれています。1つの相談窓口だけでは解決が困難なケースが多々あり、支援機関同士の密な連携を求められています。本事業においてこれまでに構築してきた連携をよりスムーズに繋がるように、又、維持・拡大していく為に、協働相手方等の支援機関と支援の事例検討を行った上で、「姫路版つながるカード」を作成し、姫路市の不登校・ひきこもり・若年無業者・発達障害者支援に寄与することを目的とします。
内容	平成30年度の提案型協働事業を活用して、ネットワークの維持・発展に努めます。 平成29年度姫路市提案型協働事業を採択頂き、相談支援機関（ネットワーク）の情報を見える化した冊子を作成し発行することができました。姫路市内に設置されている兵庫県・姫路市・民間の相談窓口担当で冊子作成の為に会議を開催し、話し合うプロセスを経てネットワークを見える化すると共に、お互いに顔の見える関係性を構築することができ、これまで以上に協力体制を取りやすい体制が整備されたと実感しています。又、冊子作成だけに留まらず、姫路市民生委員児童委員連合会長会にて冊子の一部を印刷し、姫路市内全民生委員児童委員に配布された事、兵庫県主催の県内の支援機関が集う「兵庫ユースケアネット推進会議」にて事例発表を依頼されるなど、多くの市民支援者に情報が手元に届くと共に事業実施効果は想像を超えるものがありました。 （振り返りから見えた課題） 一方で新たな課題も出てきました。 冊子作成に携わった参加者はネットワークの意味を理解し各機関の支援内容も理解が深まる一方で、参加していない課員は冊子を通じて理解は深まるものの、具体的にどのように繋ぎ連携すれば良いのか、実際に活用していく為の一工夫と支援者育成が必要ではないかと分析しました。 又、ネットワークは作るだけでは自然消滅してしまいます。維持・継続する為の工夫が必要となります。 （事業実施内容） ①不登校ひきこもり支援冊子に掲載されている機関への紹介方法について考えます。話し合うプロセスを経てネットワークの構築と支援者レベルの向上に努めます。 お互いの支援機関の内容や強みを共有すると共に、他機関の支援が必要なクライアントを確実に繋げるための方法を検討します。 対人援助のスキルアップを図る事はもちろんですが、関係機関同士、顔の見える化を行いネットワークをより深めていきます。 ②事例検討から出てくる課題等を整理し、「姫路市版相談カード」を作成し、連携を図りやすくするツールを開発します。

2018年7月20日（事前打合せ） 於：株式会社ひとまち
平成30年度の打合せ

- 平成29年度の振り返り
- 平成30年度事業企画書の共有とスケジュールの確認

2018年7月30日（事前会議） 於：姫路市役所本庁舎9階（産業局会議室）
不登校・ひきこもり・若年無業者等支援機関が繋がるプロジェクト会議

- 企画提案内容の共有と結果報告
- ネットワーク追加招集者の検討・協議
- 今後の見通し（スケジュール調整）

2018年8月10日（事前打合せ） 於：株式会社ひとまち

- 7月30日事前会議の共有
- プロジェクト会議に向けての打合せ

2018年8月16日（1回目） 於：ひめじ若者サポートステーション
不登校・ひきこもり・若年無業者等支援機関が繋がるプロジェクト会議

- 支援機関の情報共有
- つなぐシートを活用する目的と活用方法
- 次回の会議確認

2018年9月27日（2回目） 於：ひめじ若者サポートステーション
不登校・ひきこもり・若年無業者等支援機関が繋がるプロジェクト会議

- 支援機関の情報共有
- 運用ルールと提案と寸劇
- つなぐシートの活用について
- 合同研修について

2018年10月25日（3回目） 於：ひめじ若者サポートステーション
不登校・ひきこもり・若年無業者等支援機関が繋がるプロジェクト会議

- 支援機関の情報共有
- 「つなぐシート」概要の決定
- 運用マニュアルの決定
- 2月の合同研修に向けて

2019年1月10日（4回目） 於：ひめじ若者サポートステーション
不登校・ひきこもり・若年無業者等支援機関が繋がるプロジェクト会議

- 支援機関の情報共有
- 運用マニュアルの振り返り
- 2月の合同研修に向けて

2019年2月14日（5回目） 於：地域福祉課会議室（イノウエビル8階）
不登校・ひきこもり・若年無業者等支援機関が繋がるプロジェクト会議

- 繋がるプロジェクト（シート）の紹介
- 各支援機関の情報共有
- 連携に向けて

事業の効果	①本事業を通じて、ネットワークの維持が継続できたこと ②効果的な支援について、多職種間で協議・検討ができたこと ③今後も継続してネットワークの維持と拡大を行っていききたい
今後の展望	①官民連携した支援や情報共有を行っていくには、支援の枠組みが必要である ②他領域の支援制度を認知し、領域を超えても活用できる柔軟性と、活用する支援者側のスキルが求められる。

【実施団体の事業総括・感想等】

本事業を受託し、ひきこもりや不登校、若年無業者等を支援する機関が集まり、機関と機関を繋ぐ連携シートの作成を通じてネットワークの維持構築を図った。

作成物を通じ、それぞれどのような支援を実施しているか深く知ることができた。

参加者からも、支援内容について具体的に共有する機会も減多になので良かったという意見も頂いた。

個人情報の取り扱いやシートを運用するルール作りは頭を悩ませた。

正解が無い中で、姫路版として活用する形を求めて話し合った。

繋がるシートとして形作り運用も行った。今後も関係機関と協力しシートのブラッシュアップを図っていく。

ネットワークは生き物のようで、一度形成しただけでは廃れてしまう。

今後も発展していく為、関係機関と共に姫路市の不登校やひきこもり、若年無業者等への支援に寄与していく。

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

【労働政策課】

「姫路市版相談カード（繋がるシート）」の作成・運用方法の検討を通じ、各団体の支援内容や相談事例、対応に苦慮する点等、昨年度に構築できたネットワークの維持・深化が達成できたことは、支援者のスキルの向上に資するものでした。また、利用者にとっても、適切な支援の提供に繋がるため、有効なものであったと考えます。

繋がるシートの運用については困難な点もありましたが、今後、各団体と協力しながらより良い方法を検討し活用することで、ネットワークのさらなる発展を目指していきます。

【保健所健康課】

不登校・ひきこもり・若年無業者は、その背景も様々で問題も複雑化しており、1支援機関では対応が困難な状況にある。相談を受けても当課では対応できない場合も多く、他の適切な支援機関に確実に繋いだり、情報を共有し連携して支援する事が必要な場合が多い。今回の事業では、シートの作成を通じ、各支援機関の相互の理解が深まったと考えます。シート運用には課題が残っていますが、今後もこのネットワークが十分に機能し、ひきこもり等の支援が充実していくことを期待しています。

【地域福祉課】

不登校・ひきこもりのような複合的で継続的な取り組みが求められる課題に対して、民間と行政の複数の支援機関の横の連携を見える形で構築でき、大変意義深い取り組みと考えられる。

今後、連携の維持、他分野の課題も視野に入れた「横のつながり」の広がりについて、行政も積極的に関わっていく必要があると考えられる。

【育成支援課】

関係機関の方と会議を重ねるにつれ、前向きな意見が数多く出されるとともに、課題も明らかになっていった。また、それぞれの機関がどのような支援をしているのか、情報交換をするたびに理解を深めることができた。

「姫路市版相談カード」の作成途中で個人情報の取り扱いや運用上のルールなどの課題が出てきた。これは、新しいことに取り組む過程だからこそその課題であったと捉えている。今後も支援者のために、本事業を通して深まった関係機関との関わりを活かしていきたい。

【くらしと仕事の相談窓口】不登校・ひきこもり・若年無業者等を支援するツールとしての連携シートの作成を目標に、各機関の担当者が集まり、情報共有し検討を行うことで、それぞれの機関に対する理解が深まり、支援者同士の連携を図ることによって、相談者に対する適切な支援につながることは「やさしさと信頼に満ちた教育・福祉都市」を目指す本市の方針と合致し、公益性が高いものであると考えられます。

